

## 令和7年度第3回一関市子ども・子育て会議 会議録

- 1 会議名 令和7年度第3回一関市子ども・子育て会議
- 2 開催日時 令和8年2月13日(金)午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関保健センター 1階 多目的ホール
- 4 出席者
  - (1) 委員 菅原敏委員(会長)、小野寺文子委員(副会長)、千葉健太委員、木村政義委員、内記裕太委員、熊谷招子委員、熊谷慶夫委員、高橋仁省委員、千葉真樹委員、小山佳代委員  
※欠席者 永澤芳子委員、小野寺浩紀委員、阿部務委員、澁谷ひろの委員、若山義典委員
  - (2) 事務局 松田京士健康こども部長、坂本寿究子こども家庭課長、岩淵琢哉児童保育課長、武田暁子こども家庭課長補佐兼子育て応援係長、鈴木佐保こども家庭課長補佐兼こども企画係長、鈴木園恵おやこ健康係長、千葉流瑠こども家庭課主事、渡邊博幸児童保育課長補佐兼入所入園係長、熊谷早祐泉児童保育課主任主事、阿部彰いきがづくり課主査、鈴木真実教育総務課長補佐兼教育企画係長、佐藤智一学校教育課学校教育係長
- 5 協議・意見交換
  - (1) 令和8年度の主な取組について
  - (2) 特定教育・保育施設の利用定員について
  - (3) 乳児等通園支援事業の認可について
  - (4) 特定乳児等通園支援事業の利用定員について
  - (5) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 挨拶  
菅原会長

今回は欠席者が多く少しこじんまりした感じであるが、感染症等に気を付けて、皆様ご自愛いただきたい。今回は事業計画の報告について委員の方から意見を頂いたが、今回は新たな一関市令和8年度事業計画について皆様から忌憚のない意見をいただきたい。この一関市こども計画は、こどもを中心としてこどもを取り巻く環境を含めた計画となっているので、大学生、社会人に至るまで切れ目のない支援を目指す。先日の新聞で、一関市次期総合計画において、大切なひととの未来を育むまちを目標に掲げて、子育てしやすい環境作りを目指していくということで、その具体の取組をこども計画が担っていくこととなるので、皆様から意見を頂きたい。

## 9 審議内容

### (1) 令和8年度の主な取組について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 児童育成支援拠点事業について、「居場所を必要とするこども」の記載について、イメージが持てないがどのような子どもが対象になるのか。

事務局 例えば、学童に適用が難しい子どもや、家でゲームばかりして過ごしているため、学校でも家でもない居場所が必要であったり、発達特性などで集団生活が難しい子どもなどが対象である。食事や入浴ができる設備を整えており、宿題の見守りなど安心できる居場所の提供を無料で行っている。

委員 子育て短期支援事業について、令和7年度の実績について教えてほしいのと、レスパイトというのは、介護なのか、保育なのか、どこまで包括しているのか教えてほしい。

事務局 実績については、現時点でトワイライトステイについては1件、ショートステイ5件、レスパイトについては理由問わず休息という形にしている。運用上は内部での要件を設けている。

委員 4ページの病児保育について、令和7年度の実績の確認と医療機関で増やす可能性が今後あるのか教えてほしい。

事務局 病院付設型の実績については、12月末時点で300人程度の利用。医療機関での実施を増やす予定は今のところない。

委員 一時預かり事業について、教育時間の前後とあるが、教育時間前の受け入れについて拡充していくような話はあるのか。

事務局 私立では実施しているが、公立では職員数などを理由に実施していない。

- 委員 認定こども園で園長をしており、一般型で一時預かりを行っている。  
保護者から「もう少し朝早い時間帯で預かってほしい」等の要望を受け、  
対応したいと思うが、規定がある上に職員数で対応が難しい。そういった  
要望を園から市に報告をするような場があればいいと思う。
- 事務局 一時預かり事業に関しても施設長会議などで場を設けたい。
- 委員 放課後こども教室事業について、概要を見るととても素晴らしい活動  
だと思うが、現時点で予定している活動があれば教えてほしい。
- 事務局 地元の指導員に見守ってもらいながら、宿題や自由遊びなどを行って  
いる。
- 会長 放課後こども教室に関連して、こういった取組を地域ごとにまとめた  
ら、利用者もわかりやすくなるのではないか。
- 事務局 市ホームページ上で、遊び場について地域ごとにまとめたものを公開  
した。ぜひ活用してほしい。
- 委員 地域子育て支援拠点事業について、保健センターのふれあい広場やな  
のはなプラザのおやこ広場を利用しているが、なのはなプラザ内にある  
おやこ広場のことを知らない人も多いので、お互いに宣伝し合っていけ  
ばいいと思う。
- 事務局 毎月おやこ広場のチラシを共有されているので、宣伝活用の仕方を改  
めて検討したい。
- 委員 小規模保育だと3歳で卒業した後の行き先が中々決まらないという声  
が多数ある。体に問題がある子どもがスムーズに施設に入れるようにし  
てほしい。
- 事務局 3歳になる際に、転園が必要な子どもに対しては優先的に調整してい  
る。その中で、公立での受入れを希望する際は今後、調整を図っていき  
たい。
- 委員 親御さんに対して、選択肢を提示してあげてほしい。はじめての子ど  
もだと親にとっても不安が大きい。私立だけでなく、スムーズに入園で  
きればと思う。障がいを持つ子どもや、発達に遅れのある子どもが増え  
てきている中で、何か対策をとっていかないといけないのではないか。
- 事務局 窓口に来ていただければ、保育コンサルジュや調整担当の職員がい  
るので、アドバイスは可能。障がいを持つ子どもなど、公立でも増えて  
いる実感はある。保育士不足で全てのニーズに対応できていないことも

承知している。保育士の確保などにも努めて、対応できるようにしていきたい。

委員 私立は定員がたくさんで受け入れられないから、空きのある公立にいつてくれ、というように聞こえてしまう。自分の子どもが通っている幼稚園では、障がいをもつ子どもが入園してくるとなったときに先生たちが勉強して受け入れられる態勢を整えてくれた。私立での対応は難しいから、公立に、というような発想にはなってほしくない。

会長 ご意見として頂戴する。制度のなかだけでなく、一人一人出来るところから考えていかなければならないので、意見を皆様からたくさん寄せていただいてより良い子育てを考えていけたらと思う。

(3) 乳児等通園支援事業の認可について

会長 こども誰でも通園制度は現在どのくらいの実施があるのか、教えてほしい。

事務局 公立では7地域、私立では計9施設で行っている。

(4) 特定乳児等通園支援事業の利用定員について

会長 公立保育園の利用定員はたまたま全施設3人なのか。私立保育園の定員は1人から6人まで幅広いが、その違いは何か。

事務局 一般型の実施だと、通常保育とは別の場所で実施するため、施設の基準面積と、保育士の配置基準を揃えられるかどうか、となっている。

(5) その他

事務局からこども家庭課が協力しているフードパントリーについて紹介を行った。以下、質疑応答等。

副会長 フードパントリーについて、園でもチラシを配布しているが、ひとり親世帯に限定しているため、二人親でも貧困で苦しんでいる方もいて、そうした困っている人たちが手を出しやすいようなフードパントリー事業であったり、他の事業があるといい。この子ども・子育て会議の中で、現場の声を聞き出していきたい。

会長 フードパントリーを実施している、社会福祉協議会の立場としてお話しすると、ひとり親支援という名目で行ってはいるが、厳密にひとり親かどうかをチェックしたりすることはなく、行っている。貧困問題等について、声に出せない家庭があることも危惧しており、声をあげやすい仕組みづくりをしていきたいと思っている。困っている方がいれば、ぜひ社会福祉協議会を紹介していきたい。

委員 近所の公園の鉄棒が老朽化で撤去された。年々、公園内の遊具がなくなり、子どもと気軽に遊べる場所が少なくなっている。遊水地公園や萩荘の大きな公園に行けばいいと思われるが、子どもと一緒に歩いていける身近な公園が充実してほしい。そうすれば、幼少期からの運動習慣が身について、健康寿命も延びるのではないかと思う。

もう一点、先日の選挙について、期日前投票を行っているが、その際、子ども連れにシールをもらい、友達ママに共有したところ、当日の図書館に選挙にいった際、「ここにはない」と言われてしまい、残念がっていた。子どもを連れて選挙に行くという体験は子どもにとっても選挙を身近に感じる良い機会だと思うので、シールの活用についてとてもいい取組だと思うので、ぜひ数を増やして実施してほしい。

事務局 それぞれの担当課に共有する。

副会長 先ほどの公園の件について、園職員としてとても共感する。それに加えて最近では熊対策で、以前は釣山公園などに毎日散歩に行っていたが制限されており、熊スプレーや監視員などでできる限り対策をとっているが、子どもが元気に外で遊ぶことが制限されてきている。そうした現場の状況を知ってもらいたい。室内で安心して遊べるイベントを園でも協力するので企画してほしい。

事務局 地域の皆様のおかげで、こども食堂など集える場所作りは、少しずつ進んではいるが、子どもにとって安心して遊べる場所について、庁内で連携しながら検討していきたい。

10 担当課 健康こども部こども家庭課